



Calbee
Harvest the Power of Nature.

Calbee

持続的な馬鈴薯調達への取り組み

2023年9月26日
カルビー株式会社

= 沿革 =

1949年 松尾糧食工業（株）創立
創業者 松尾孝

1955年 カルビー製菓（株）に社名変更

1964年 **かつぱえびせん**発売

1973年 カルビー（株）に社名変更

1975年 **ポテトチップス**発売

1980年 カルビーポテト（株）設立

1995年 **じゃがりこ**発売

2006年 **Jagabee**発売

2011年 東証一部上場



創業の精神

健康に役立ち、安全で安価な商品づくりと、**未利用な食糧資源を活かした商品づくり**を目指して、社内の英知を結集するために企業を組織する。

= 2023年度4月1日時点 =

代表取締役社長 兼 CEO

事業内容

資本金

2023年3月期

コーポレートメッセージ

江原信

菓子・食品の製造・販売

12,046百万円

売上高 279,315百万円

掘りだそう、自然の力。

掘りだそう、自然の力。

Calbee

カルビー商品

ポテトチップス



堅あげポテト



じゃがりこ



かっぱえびせん



サッポロポテト



さやえんどう



Jagabee



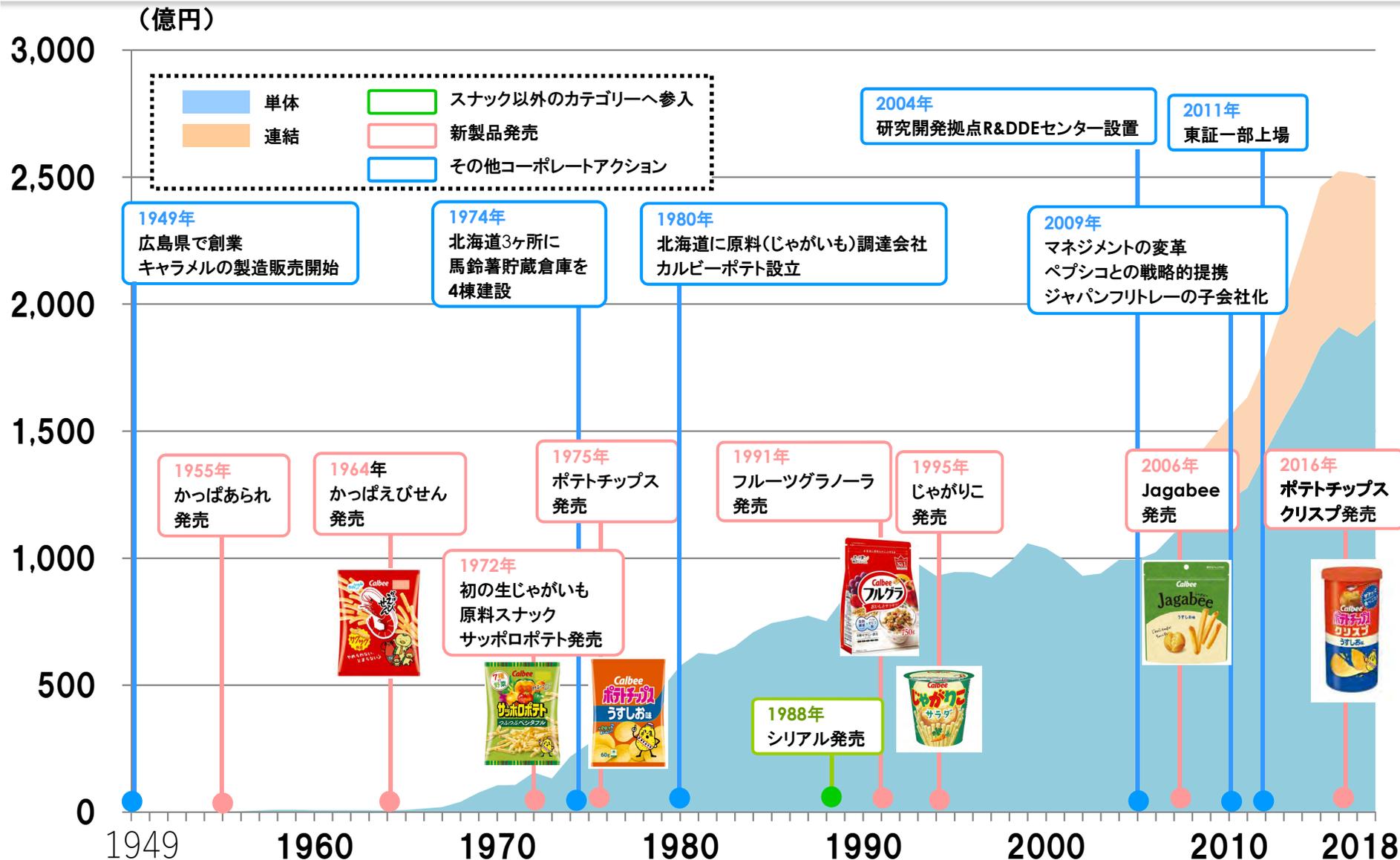
フルグラ



他



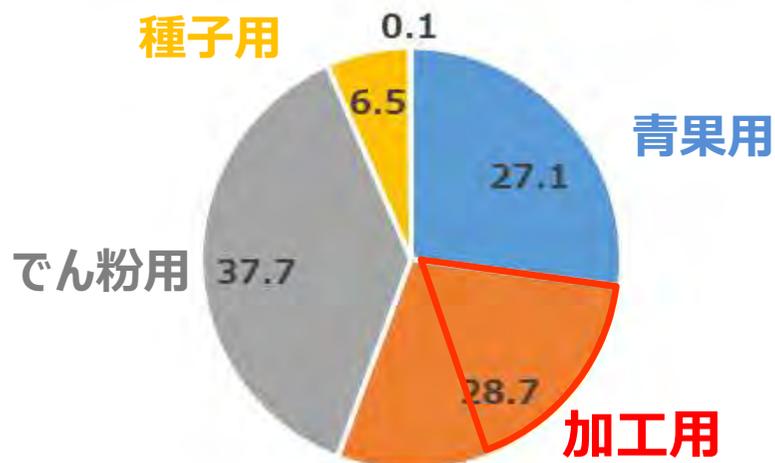
商品と売上高推移



馬鈴薯調達量と産地

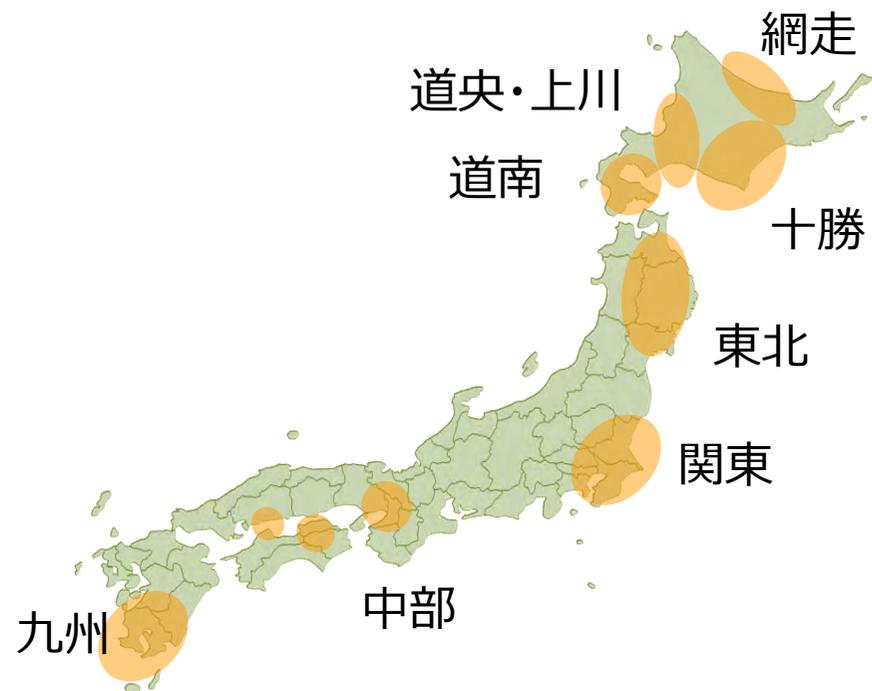
カルビー馬鈴薯使用量

馬鈴薯用途別使用比率(%)



出典：令和4年いもでん粉に関する資料

馬鈴薯産地



カルビー馬鈴薯使用量

国産馬鈴薯使用量のおよそ1/6

約35万トンの馬鈴薯を使用している

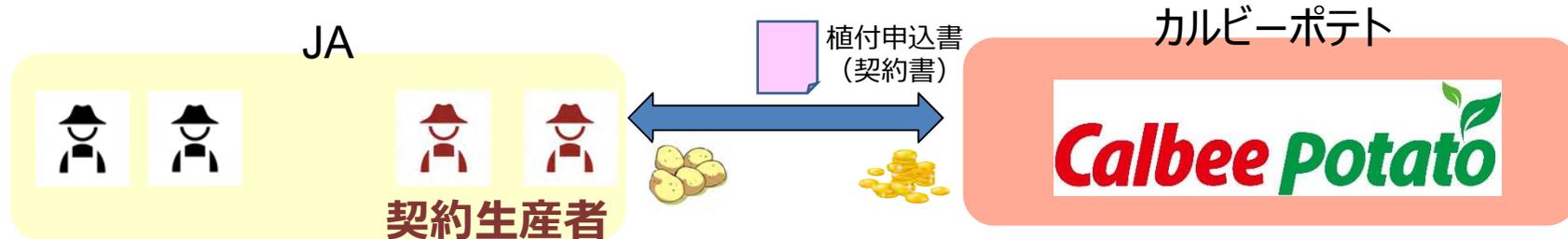
1. 契約栽培による安定調達
2. 生産性の向上
 - 1) フィールドマンによる産地活動
 - 2) 栽培技術の開発と普及
 - 3) 新品種開発
3. 就農人口減への対応（省人化）
 - 1) 海外高効率収穫機械の導入・デモ
 - 2) コントラクターの展開
 - 3) 取引方法の選択肢増加
4. 産地拡大と育成

1. 契約栽培

安定調達実現の「根幹」 契約生産者による契約栽培

1戸1戸と植付前に決められた条件にて「契約」
契約圃場から収穫された馬鈴薯は基本的に「すべて購入」する

府県 600戸 北海道 1,000戸



取引要領・・・規格や、購入価格を明記

※馬鈴薯の「品質」で価格が変わる ⇒カルビーが望む良質な馬鈴薯を
沢山出荷すると生産者の収益も増える

契約栽培のメリット

生産者

- ・安定した販売先
- ・収益がある程度見込める
- ・カルビーと直接コミュニケーション出来る

カルビー

- ・毎年安定した出荷が見込める
- ・カルビーの要望等を直接お伝え出来る
- ・安心安全な原材料を調達できる

1. 契約栽培による安定調達
2. 生産性の向上
 - 1) フィールドマンによる産地活動
 - 2) 栽培技術の開発と普及
 - 3) 新品種開発
3. 就農人口減への対応（省人化）
 - 1) 海外高効率収穫機械の導入・デモ
 - 2) コントラクターの展開
 - 3) 取引方法の選択肢増加
4. 産地拡大と育成

2-1)フィールドマンによる産地活動

- ・契約主産地に「担当者（FM）」を配置
- ・担当生産者をもち、圃場巡回し、生産者と直接「対話」
- ・生産者からの相談対応
生産者への栽培技術提案
知識や技術の紹介

生育状況の確認



状況共有や意見交換



九州

Mg1名 FM5名

岐阜

(Mg1名) FM1名



FMの目的

- ・高収量/高品質原料生産支援による生産者収益向上
- ・ // による良質原料確保
- ・長期にわたる継続的な取り組みによる技術の向上



栽培講習会



作業確認・支援

2-2) 栽培技術の開発と普及

馬鈴薯研究所 & 技術支援課

～加工馬鈴薯に関わる全般について研究 & 技術支援

- ・栽培方法 肥培管理技術、施肥、農薬、
- ・農業機械 播種～防除、収穫機械等 新技術の導入 試験
- ・他機関との共同研究/情報交流
- ・新品種開発

例1) 土壌診断による「施肥設計」



生産現場へ
フィードバック

例2) 灌水技術の推進



写真、土壌水分センサー埋設の様子
左下：土壌水分センサー
右上：携帯端末上の表示画面

例3) 培土機械の改造



2-3) 新品種開発

自社取組の理由

- ・馬鈴薯の育種は、日本では限られた機関でしか行っていない
- ・「カルビーポテトチップス」に適した品種を作りたい
- ・契約生産者が「栽培したい」と思える品種を作りたい

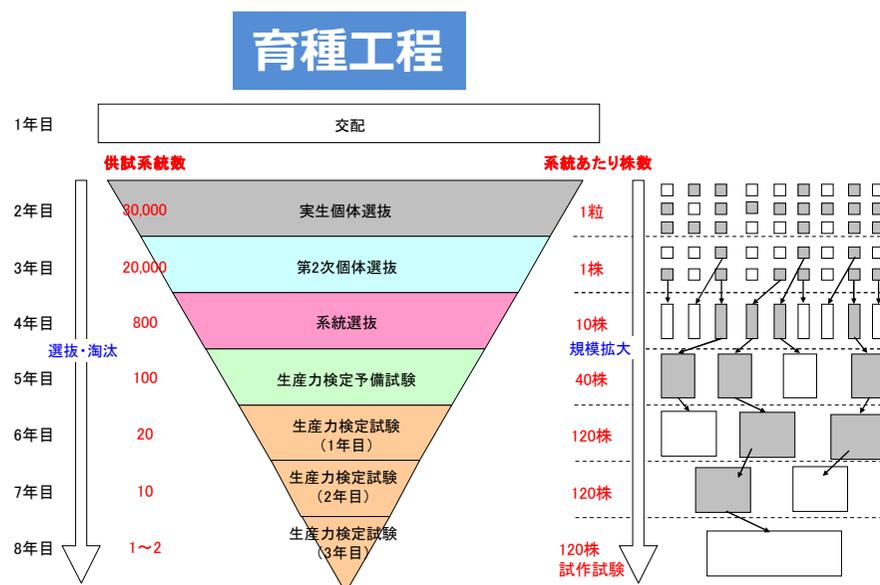
収量性・病害抵抗性・作業性・貯蔵性・加工特性・味・食感……

成果

オリジナル品種「**ぽろしり**」を開発

選別が楽で、多収な為 生産者からの栽培要望が多数

現在も有望品種（候補）を継続開発中



オリジナル品種「**ぽろしり**」



1. 契約栽培による安定調達
2. 生産性の向上
 - 1) フィールドマンによる産地活動
 - 2) 栽培技術の開発と普及
 - 3) 新品種開発
- 3. 就農人口減への対応（省人化）**
 - 1) 海外高効率収穫機械の導入・デモ**
 - 2) コントラクターの展開**
 - 3) 取引方法の選択肢増加**
4. 産地拡大と育成

3-1)海外高効率収穫機械の導入・デモ

従来の仕組

1日当たりの収穫能力 0.5ha



収穫

収穫機上で2-4人で「選別」
規格外品を除く



輸送

生産者が集荷場へ自搬



荷下

小さい機械で少しずつ荷下

生産者減&短期労働者減により「困難」に・・・

大型化システム

1日当たりの収穫能力 4ha



収穫能力アップ&
機上選別簡略化



物流会社などで
大量輸送



大型機械で一気に荷下ろし
選別は「カルビー」で代行

収穫を「止めない」/人をかけない 仕組みへ

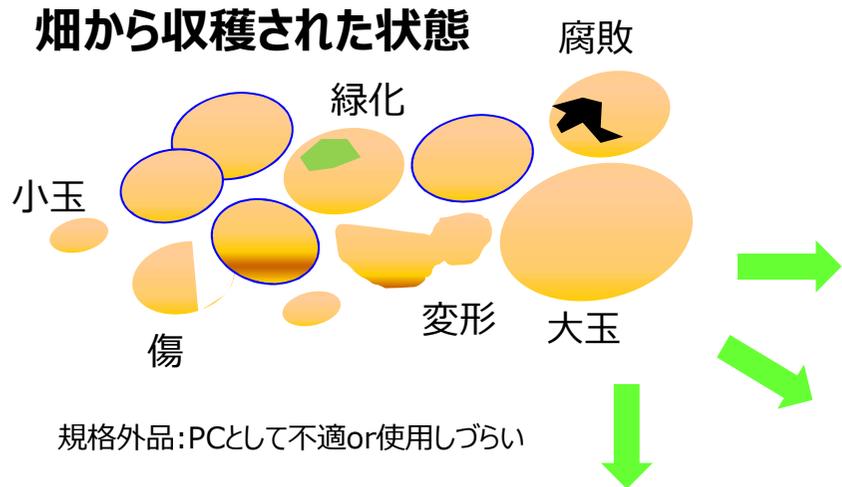
3-2)コントラクター（収穫請負）の展開

- ・コントラクター：収穫作業等を他者へ委託。生産者は他の農作業へ従事が可能
- ・2001年にカルビーポテトで開始 ⇒各産地へ紹介&展開



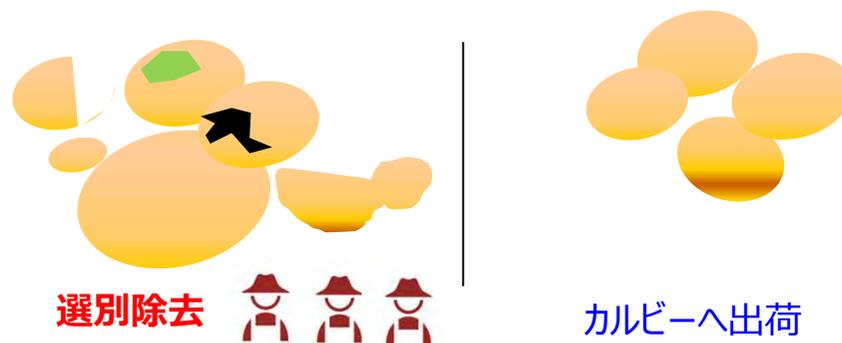
3-3)取引要領の多様化

畑から収穫された状態



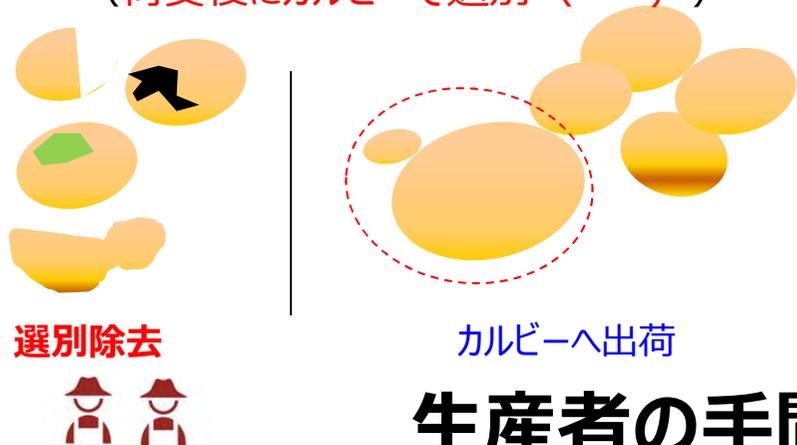
①基本となる取引

生産者が収穫時に「規格外品を除去」して出荷



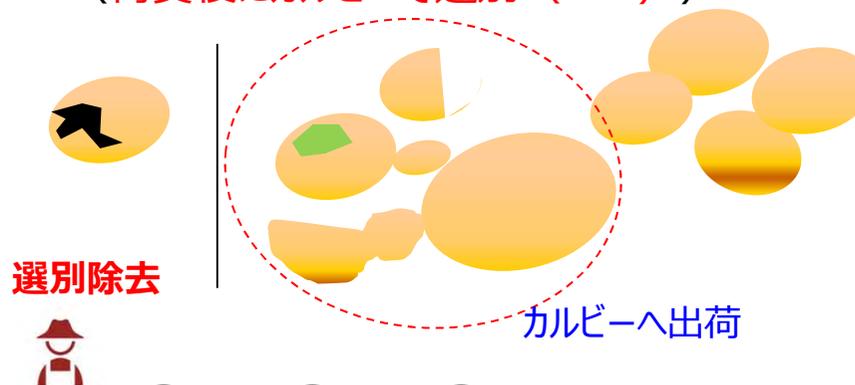
②混玉取引

小玉 & 大玉規格外品は除去しなくて良い
(荷受後にカルビーで選別 (----))



③全量取引

腐敗規格外以外は除去しなくて良い
(荷受後にカルビーで選別 (----))



**生産者の手間
収穫速度/価格**

① > ② > ③

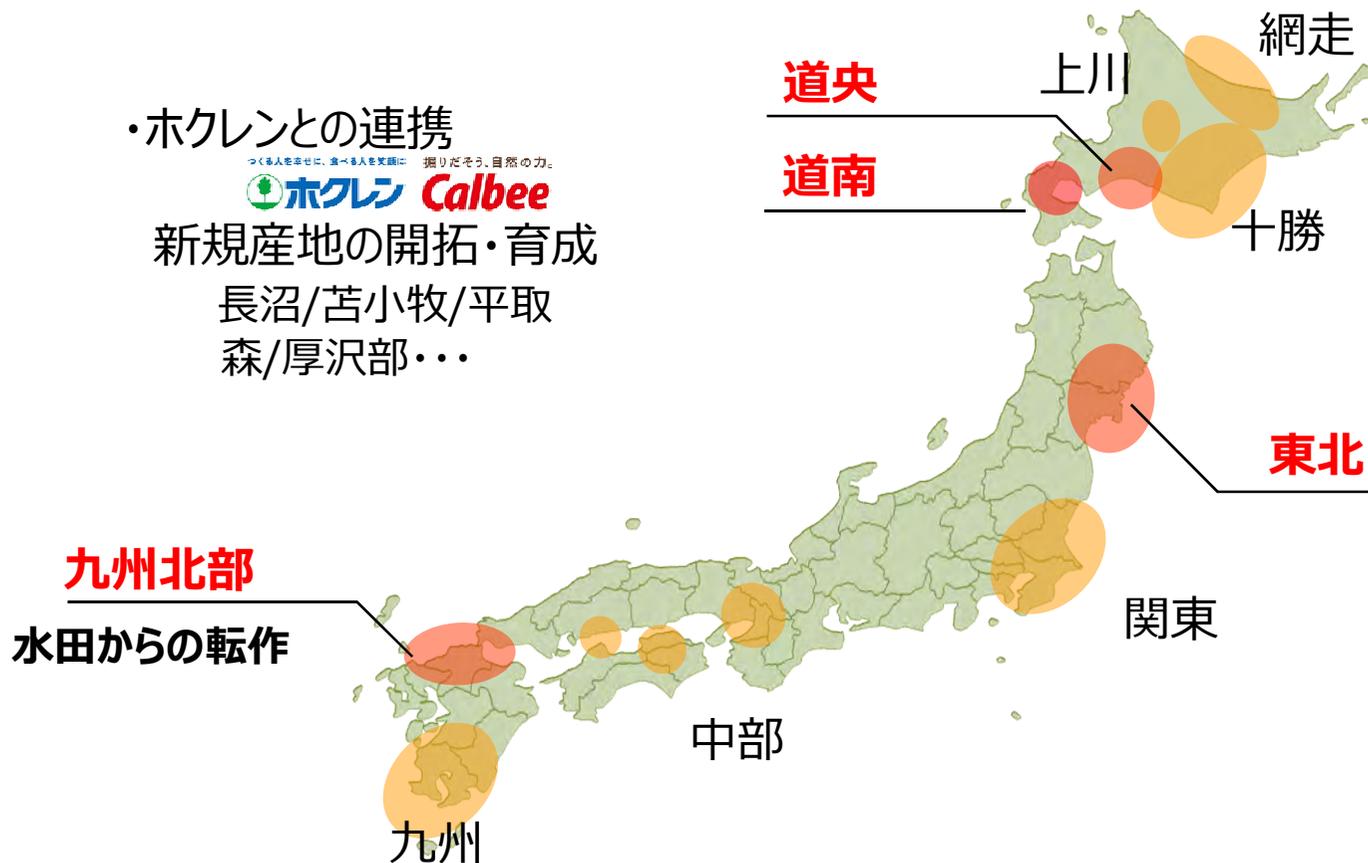
① < ② < ③

1. 契約栽培による安定調達
2. 生産性の向上
 - 1) フィールドマンによる産地活動
 - 2) 栽培技術の開発と普及
 - 3) 新品種開発
3. 就農人口減への対応（省人化）
 - 1) 海外高効率収穫機械の導入・デモ
 - 2) コントラクターの展開
 - 3) 取引方法の選択肢増加
- 4. 産地拡大と育成**

4.産地拡大と育成

気象条件の変化 ⇒ 産地の分散化

・ホクレンとの連携
つくも人をあせに、あべも人を笑顔に 掘りだそう、自然の力。
ホクレン Calbee
新規産地の開拓・育成
長沼/苫小牧/平取
森/厚沢部...



・宮城県登米
水田からの転作



栽培技術の指導
集荷協力

必要機械のレンタル
市町村・JAとの連携



国内原材料の安定調達、日本・北海道の農業振興の観点から
自治体・JA・生産者と協業して、馬鈴薯産業を推進します

END